



一中だより

令和2年 9月 8日 第4号 文責 校長 田中 常雄

修学旅行に向けて

本校では、修学旅行は例年9月初旬信州方面へ行っていました。今年度も同じ時期に企画していましたが、コロナ対策で予定を変更せざるを得ませんでした。修学旅行は、学習指導要領にも位置付けられ、大きな教育的意義を有する行事であり、生徒にとっても最も印象に残る行事の一つです。今年度、新型コロナウイルスの対応により、様々な行事の実施が見送られているなかで、本校では修学旅行を感染拡大防止に最大限配慮し実施していく予定です。

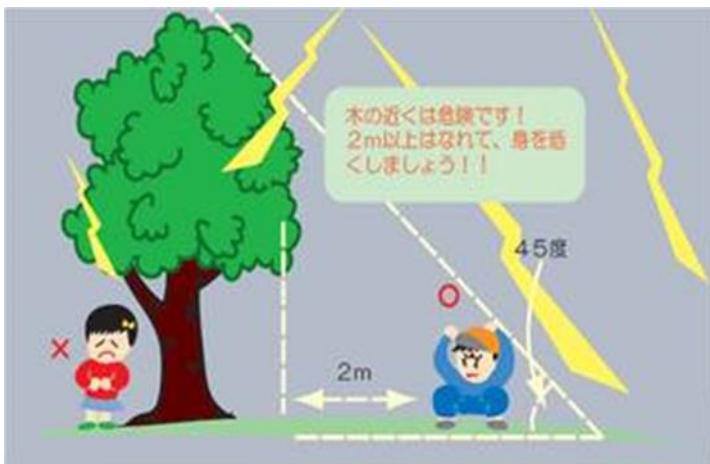
実施日は、11月4日(水)、5日(木)、6日(金)の2泊3日です。行先は北陸方面に変更しました。9月17日(木)に修学旅行の保護者説明会をします。説明会は一同に会して行う形をとらず、参加していただく皆様には3年生の各教室に分かれ、モニターより担当者が説明をさせていただく予定です。当日は旅行社の方に来てもらって質問などがあればお答えすることもできます。現段階では様々な感染対策を行いながら実施していく方向で進めています。ただし、今後守口市や大阪府、また訪問先である石川県や滋賀県の新型コロナウイルスの感染状況や対応策等も踏まえつつ、実施の判断を進めていきます。

GIGA スクール事業

守口市では新型コロナウイルス感染症対策でICTを活用した子どもたちの「学びの保障」を実現するためにGIGAスクール事業＝一人一台のタブレット端末を整備し家庭学習に活用できる体制を作っていくことになりました。本校では、これまで2年間守口市の「サイエンス推進リーダー」育成事業の指定も受けiPadが貸与され進めてきたことを生かし、GIGAスクール事業を効果的に進めていきたいと考えています。搬入のスケジュールは、3年生は10月、2年生11月、1年生は12月の予定となっています。



自然災害に備えて



9月に入り「集中豪雨」「雷」「台風」など最近多く発生しています。今回は、[気象庁のHP](#)より『「雷」からの身の守り方』についてお知らせします。

雷は、雷雲の位置次第で、海面、平野、山岳などところを選ばずに落ちます。近くに高いものがあると、これを通して落ちる傾向があります。グランドやゴルフ場、屋外プール、堤防や砂浜、海上などの開けた場所や、山頂や尾根などの高いところなどでは、人に落雷しやすくなるので、でき

るだけ早く安全な空間に避難して下さい。

鉄筋コンクリート建築、自動車（オープンカーは不可）、バス、列車の内部は比較的 안전한空間です。また、木

造建築の内部も基本的に安全ですが、全ての電気器具、天井・壁から1m以上離れば更に安全です。

近くに安全な空間が無い場合は、電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4m以上離れたところ（保護範囲）に退避します。

高い木の近くは危険ですから、最低でも木の全ての幹、枝、葉から2m以上は離れてください。姿勢を低くして、持ち物は体より高く突き出さないようにします。雷の活動が止み、20分以上経過してから安全な空間へ移動します。

なお、保護範囲に退避していても、落雷地点の近くで座ったり寝ころんでいたりしていると、地面に接触している身体の部分に、しびれ、痛み、ヤケドが発生し、ときには歩けなくなることがあります。

雷雲が接近、通過中で下校時間等に重なると生徒は学校で待機することがあります。その後雨雲レーダー等で判断し、状況を見て待機を解除するようにしていますのでご理解ください。

新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見の防止に向けて、文部科学大臣がメッセージを発表しました。この紙面でお知らせします。

保護者や地域の皆様へ

学校において、児童生徒等の学びを確保するための取組を進めることができているのは、保護者や地域の皆様に感染症対策の取組に御理解と御協力を賜っているからであり、心より感謝申し上げます。

しかし、このような取組を徹底しても学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。誰もが感染する可能性があります。その上、新型コロナウイルス感染症には未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多いと思います。

私たちは、この感染症と、この感染症がもたらした社会の変化に対して、現時点での科学的な知見や見解に基づいて、正しく向き合うことが必要です。私からは、保護者や地域の皆様に次の二点をお願いいたします。

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。そして、自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せずに、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。感染を責める雰囲気広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ます。その点からも差別等を防ぐことは必要なことです。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する御理解と御協力です。

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならではの学びを大事にしながらか教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。また、大学についても、感染症対策の徹底と、対面による授業の検討も含めた学修機会の確保の両立をお願いしております。

これからの予測困難な時代を生きていく児童生徒等や学生が、必要となる力を身に付けていくことができるよう、学校の教育活動の継続への御理解と御協力をお願いいたします。新型コロナウイルスのみならず、感染症へ正しく対応するためには、最新の科学的な知見等を知ることが不可欠です。政府として、分かりやすい広報に努めているところですが、保護者や地域の皆様におかれても科学的な知見等を日々の生活に生かしていただきたいと思っております。

令和二年八月
文部科学大臣萩生田光一